

私たちにとっての生物多様性

環境カウンセラー

岡本明子

今日の予定

- はじめに
- 事例紹介
- 事例から見えてくること
- 生物多様性が浸透しない訳
- 生物多様性を浸透させるために
- 思い出してほしいこと

はじめに

- 岡本の立ち位置...自分自身がフツーの人
- 環境教育に従事...フツーの人と接する機会が多い
- 翻訳者...専門家とフツーの人とをつなぎたい
- テーマは、自然との共生...人と自然とがよりよく暮らすためにはどうすべきか？

事例の分類(こども)

	こども 未就学児	こども 小中学生『』	こども 高校生
読み物	紙芝居 読み聞かせ	NHK『どーする地球の明日』 質問コーナー回答者 ベネッセ『夏のチャレンジ』 審査員	
講演	エコキッズ 出前授業 キッズステー ション出演	環境未来探検隊 出前授業	オープン講座 出前授業
ワークショップ	エコキッズ	環境未来探検隊 出前授業 ブース出展	オープン講座 出前授業
見学	エコキッズ	環境未来探検隊 キッズエコツアー(愛知万博)	

事例の分類(おとな)

	おとな PTAなど	おとな 環境関心有	おとな フツワーの人
読み物	校長会新聞	本 環境白書	本 パンフレット
講演	講演会	講演会 なごや環境大学 エコカレッジフォローアッ プ研修会	講演会 公開講座 勉強会など (愛知県主催など)
見学		なごや環境大学 公開講座(生涯学習セン ターなど)	なごや環境大学 公開講座(愛知県主 催など)

エコキッズ

主催：名古屋市環境局

内容：市内幼稚園・保育園からの依頼で市が講師を派遣して環境教育を行う。ほとんどの場合は園に出向き紙芝居や観察会を行う。

岡本は動物園内で展示動物を活かした環境プログラムを行う

《生物多様性について》

- ほとんどの子が、まったく知らない。先生・保護者も同様
- 漠然とだが、生き物と自然の関係を理解する。先生や保護者に伝わると、相乗効果あり

愛知万博 キッズエコツアー

主催：愛知万博

内容：愛知万博会場内で、環境に配慮された建物、施設などを紹介しながら会場内を1時間ほどかけて案内。主な対象は子供だが、親子、高校生以上や大人だけのグループもある。

岡本は秋篠宮両内親王殿下のご案内をも担当。

ボランティアの育成にもかかわる。

《生物多様性について》

- 温暖化は話題になっていたが、生物多様性の概念は一般的でなかった。自然共生という言葉はあった。
- 温暖化が、人間の生活を脅かすだけでなく、ほかの生物のバランスを崩してしまう恐れは理解される。
- 愛知万博の開催まで、自然保護団体と環境万博をうたう協会との軋轢が連日のように報道された。

環境未来探検隊

主催：名古屋市教育委員会

内容：市内の小学5・6年生、中学生を対象に講義、見学、自然体験などの一連の環境教育を行う。その成果を子ども会議で発表。

岡本は初年度からすべての年にかかわる。(先生方は異動あり)

《生物多様性について》

- 環境に関心のある子が集まるため、言葉・知識として知っている子は多い。
- 体験が絶対的に少ないため、感覚的に理解できているとは言えない。
- 一連の事業での子供たちの変化は著しい。
- OBなどが関わり続ける→環境への意識続く・学年を超えた交流
- 2010年は、愛知県教育委員会などと共に世界版子ども環境会議を開催、COP10で発表

なごや環境大学

主催：名古屋市環境局

内容：NPOなどが講座を企画申請後開催。WS型が多い。

市から助成あり。市名義の依頼書の作成も可

岡本は初年度から見学会型講座を企画運営。好評

例：セントレア講座...検疫制度は日本の生態系をも護る

研究所訪問...愛知県内の農業関連施設・研究所の見学

《生物多様性について》

- 環境に関心のある人が多いが、生物多様性という言葉には認識薄い
- 参加者はシニア層も多い。昔の生態系など参加者に教えられることも多い。
- あまり導入を難しくすると敬遠される。
- 最近では、あまり環境を前面に出しすぎない講座を目指す。

ブース出展など

NHK名古屋放送局

こども(+保護者)対象ワークショップ、パネル展示

テーマ:植物防疫制度、木の利用、鳥獣害など

生物多様性フェア・環境デーなど(環境省・県・市など主催)

テーマ:検疫制度が護る生態系、鳥獣害、外来生物、

ステージ司会など

《生物多様性について》

- ほとんどの子・人が全く知らない
- 子供には、パネル展示だけでは伝わりにくい。WSをしながらだと、何となく理解する。
- 関心のある大人は、パネルをじっくり読み、興味深そう。質問も多い。

事例から見えてくること

- 生物多様性は、あまり知られていない
 - 開催地でも、『COP10』は知っていても生物多様性は知られていない・・・言葉すら記憶に残せなかった
- あいまいで、伝えにくい
 - 伝えるための効果的なツールが開発しきれなかった
- 理屈より、感覚的にとらえる人が多い
 - 理屈っぽい人には伝えにくい
- 話題に取り上げにくい
 - マスコミなどでの扱いは限定的

生物多様性が浸透しない訳1

複数の企業人の言葉

- 間伐には行った。でもそれ以上広がらない
- 社会貢献だけでしか行えない。本業につながらない。
- 企業は、営利目的団体。生物多様性に配慮した行動をするのはいい事だという社会認識が広がらないと、大きな動きには出れない。

浸透しない訳2

学校関係者の言葉

取り組みにくい現実を前に...

- 自由に使える時間が減り、時間が割けない
- 授業のどこかと関連付けたいが、うまくいかない
- 忙しすぎて、独自のプログラムを作る余裕がない。既存のものがあれば、考えてもいい。

浸透しない訳3

NPO関係者の言葉

NPO団体は、既存の活動・テーマが前提になっている

- うちの扱うテーマと違う・・・
- このテーマ、もう、A団体がやっているから・・・

生物多様性を浸透させるために

さまざまな事情はあっても伝えたい！！

- ・1人の10歩か？ 10人の1歩か？
- ・フツーの人にもわかって欲しい！！
そうしないと大きな動きにならない

⇒わかりやすく伝えていくしかない！！

伝える工夫1

いろいろな方法を試みる

- ・フツーの人向け講演会
- ・施設見学会

自分にとって当たり前でも、ワクワクがたくさん

- ・サイエンスカフェ

得意分野を活かし、ざっくばらんに

伝える工夫2

- 直球はあいまいすぎて伝えにくい

直球:

3つの多様性、3+1の危機、生態系サービス...

- フツーの人にも関心を持ってもらえる所から
食べ物、生き物、水...
- 得意分野から
- 専門分野を超えたところから

食・農から伝える生物多様性1

- 農業から見た環境

農業に環境が大切という認識は古くからあった

- 環境から見た農業

農業は環境の敵、という認識も有った。COP10を契機に、農業の環境への貢献に対する認識広がる。

- 食への関心は高い

食の安全、食育、自給率、食料の確保など

食・農から伝える生物多様性2

食への関心は高い...

食と生物多様性とを関連付けると伝えやすい

例えば

- 食の安全・・・生物農薬（フツーの人には受け入れられにくい農薬だが、生物多様性に配慮した安心できる方法もある）
- 食育・・・食品ロス（食べ物ができるまでには多大な人手、肥料、エネルギーなどが必要。捨てるのは『もったいない』）

など自分の得意分野（研究分野）から伝えると話に厚みが出て、関心を引きやすい。

思い出して欲しいこと

できることは人さまざま

ただ、忘れてはならないのは...

- フツーの人の知識・立場を考慮すること
- フツーの人にも興味を引く部分を含めること

私たちフツーの人を、忘れないでください!!

～ご清聴ありがとうございました～